

人体の運動時におけるガードルの機能性について

—特に被服圧と歪みとの関係において—

東北女大家政 ○奥野右子 弘前大農 福地博 大阪市大 田中道一

目的 先回はガードルの歪みについて報告したが、今回は同じ箇所における被服圧分布について、これらに関連づけながら検討することにより、ガードルの機能性について、フィット性を主に追求した。

方法 測定器機は、共和電業製、PS型、超小型圧力変換器、直径6mm、厚さ0.6mmであり、静止時、左・右ねじり、左・右側倒の動作においてガードル waist line から、下に 3cm、正中から側腹より、3cm間隔を、腹部、殿部について測定を行った。

結果 静止時では、腹部において、waist line 及び

ほぼ middle hip 付近で被服圧が、 $30 \sim 35 \text{ kg/cm}^2$ となり、歪みの結果と一致した傾向にあるが、動作をすることによって、waist 部に向かって被服圧が高くなり、水平歪みは正中付近では負となり、人体とガードルとの間にズレがあり、運動時におけるフィット性はないといえる。

